

## いわき農林事務所ニュース

2006年 12月号



### ◎活動状況

- [渡辺小「田んぼの学校」その9～11](#)
- [市営牧野閉牧](#)
- [県境防疫会議開催](#)
- [食農教育・出前講座開催](#)
- [ちびっこおいしいご飯教室開催](#)
- [食彩いわき地産地消セミナー開催](#)
- [間伐材搬出ボランティア活動実施](#)

### ◎トピックス

- [第35回いわき市花いっぱいコンクール](#)
- [食品表示研修会開催](#)
- [いわき地区農林統計協議会開催](#)
- [間伐作業講習会開催](#)

## 活動状況

### ○渡辺小の「田んぼの学校」その9～11

#### ◇その9 おにぎりパーティー開催！

11月7日(火)、「おにぎりパーティー」が渡辺町公民館で開催され、渡辺小学校5年生14名が参加しました。いつもは、「田んぼの学校」を受講する側の児童達ですが、今回は、全て児童達が主催で、おにぎりの準備から活動の進行まで行いました。

児童達は、会食に先立って行われた「思い出発表」において、1月の開校以来の全ての活動を、感想文を読みながら寸劇で再現するという面白い出し物を披露しました。寸劇は、各活動の特徴を捉えて上手に表現し、応援団は感心しきりでした。また、応援団の真似をする児童もあり、終始笑い声が絶えない「思い出発表」となり、大いに盛り上がりました。

その後、児童達が握ったおにぎりとお父さんやお兄さんが作った豚汁で、参加者全員で楽しく会食を行いました。児童達と応援団が丹精こめてつくった「ふくみらい」のおにぎりは、「新米」・「炊きたて」ということもあって、みんなが「おいしい！おいしい！」と格別の味のようなでした。



おにぎりをほおぼる児童達「がぶっ！」

## 反収9俵の収穫！



思い出発表の様子

今回の活動に先立ち、応援団の方々が糲摺りを行った結果、反収9俵の収穫がありました。かなりの上出来で応援団も満足した様子でした。

### ◇その10 土地改良施設見学会

11月17日(金)、渡辺小学校3・4年生41名を対象に「土地改良施設見学会」を開催し、鮫川用水路の施設の見学などを行いました。

はじめに、遠野取水口を見学し、この水が自分たちの住んでいる地域の「田んぼの用水」になることや、4時間程度かけて、約14kmの水路を流れていくことを学びました。児童達は、取水ゲートに手を入れ、水の流れと冷たさを体感しました。

次に、鮫川用水路の取水してから6番目の水路橋で、約70mの延長がある原田水路橋を見学しました。児童達は、水路橋の上を歩いて対岸まで行き、管理者から水量の調整の苦労話などを聞きました。また、水路橋の中を水が流れていることを知ると、



取水ゲートの見学

寝そべて耳をつけ、水の音を確認していました。その後、原田水路橋近くの山林でドングリ拾いを行いました。ドングリ拾いは、鮫川堰の水源地(鮫川村・古殿町)付近の豊かな森づくりを行うため、水土里ネット鮫川堰から提案があったもので、今後は、児童達による植林も計画しています。児童達は、良いドングリ(ツヤがあって水に沈む)を一生懸命探しましたが、虫に食べられていたり腐っているものが多く、あまり見つかりませんでした。

最後に、渡辺小近くの水道局田部ポンプ場を見学しました。この施設では、鮫川用水路から取水し、ゴミ・塵などを取り除き、砂を沈めてポンプ井に水を集め、泉浄水場へ送水していることを学びました。自分達が飲んでいる水は、実は小学校のすぐ近くから送水されていることに児童達は大変驚き、水の流れを実感する一日となりました。

### ◇その11 「収穫祭」で餅つきを体験!

11月29日(水)、たんぼの学校の「収穫祭」が渡辺町公民館で開催され、渡辺小5年生14名が餅つきを行いました。

まず、児童達は、野外で昔ながらの臼と杵を使い、1年間手塩にかけて栽培したもち米(こがねもち)の餅つきを行いました。児童達は、応援団から杵の持ち方や足のおき方などを教えてもらい、「ヨイショ、ヨイショ!」のかけ声で、一人ずつ餅つきを体験しました。



餅つき体験「ヨイショ!」

その後、館内へ移動し、つくたての餅から、お雑煮、あんころ餅、じゅうねん餅、納豆餅、大根餅を作り、全校児童やお世話になった応援団へ振る舞いました。児童達や応援団は、5年生達が作った餅と地元の方から頂いた大根や白菜の漬け物に舌鼓を打っていました。中には、大根餅を20個以上食べた高学年の児童もいて、大人達を大変驚かせていました。最後に5年生も一年間の活動を振り返りながら、自分達でついた餅を味わっていました。

今回の収穫祭で、5年生の活動は終了しますが、「たんぼの学校」は来年度も渡辺小で行いま

す。1月23日に引き継ぎ式も兼ねて新5年生（現4年生）の開校式が開催される予定です。

## ○市営（芝山・荻）牧野が閉牧

11月14日（木）にいわき市営荻牧野、11月22日（水）に同芝山牧野の閉牧式が開催されました。

当日は、両牧野とも好天に恵まれ、飼養者をはじめ市農業水産課、畜産関係者が見守るなか、約半年の放牧期間を過ごした牛達は、健康検査を済ませた順から飼い主にひかれて名残惜しそうに放牧場を後にしました。

今年の最大放牧頭数は、芝山牧野85頭、荻牧野58頭でいわき地方から多くの牛が放牧されました。放牧期間中は家畜の健康管理のため、3週間に一度の放牧牛検査に合わせて殺虫剤の塗布（ダニ駆除）を行うなど疾病防止に努めた結果、大きな事故の発生はなく、無事放牧を行うことができました。

標高の高い広い草原で豊富な牧草をお腹一杯食べ、十分な運動をした牛たちは足腰の強い体に成長し、冬期間は里に下りますが、牧草が青々と繁る来年の5月頃には再び牧野へと戻ってきます。



放牧されていた牛達



検査を待つ牛達

## ○茨城県・栃木県・福島県の県境防疫会議を開催 （いわき家畜保健衛生所）

11月15日（水）～16日（木）、本県と隣接する茨城県、栃木県との家畜防疫に関する会議をいわき家畜保健衛生所の主催（持ち回り開催）で開催しました。

この会議は、県境を接する家畜保健衛生所の防疫担当者が集まり、年1回情報交換を行う会議で、今回で第46回目の開催となります。

参加者は、茨城県から県北家畜保健衛生所、栃木県から県北・県央地区の家畜保健衛生所、福島県からいわき・県南地区の家畜保健衛生所の各担当者で、その他、3県の主務課担当者がオブザーバーとして参加し、23名が一堂に会しました。

会議では、昨年茨城県で発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫対策や牛のヨーネ病清浄化対策、豚コレラ対策のほか、各家畜保健衛生所での伝染病発生や対応状況についての意見交換を行いました。

特に高病原性鳥インフルエンザの防疫については、発生農場を管轄する茨城県県北家畜保健衛生所からスライド等を使用して詳細な対応内容が説明され、今後の防疫対策方法を立案する際に大変参考となるたくさんの情報を得ることができました。

## ○食農教育・出前講座続々開催中！

## ①食育出前講座を実施 ～植田中学校～

11月2日(木)、植田中学校において食育出前講座を行いました。今回は、「いわきのおいしさ発見」をテーマに全校生徒591名と保護者を対象に、農林事務所職員がスライドを使って、食生活指針、食事バランスガイド、更には地域の農林業について説明しました。

はじめに、食育は単に食に関する知識を学ぶだけのものだけでなく、食べ物を育てた土地や風土、文化さらには農業にも繋がることを伝えるとともに、農林事務所の業務内容などを紹介しました。

次に、食生活指針や食事バランスガイドの策定された経緯、具体的な内容を説明し、事前に配布した食事バランスガイドのチェックリストに、生徒の食事内容を実際に記入し確認する作業も行いました。最後に、地域の農林業や農林産物、さらには郷土食についての説明も行いました。生徒からは、「食生活を楽しくするため大切なことを知ることができた」「食事のバランスが悪く驚いた」などの感想が寄せられました。担当の先生からも、「今後は学年単位で実施すれば効果が上がるのではないかな」などの意見もあり、今後の食育の推進が期待されます。



食事バランスガイド

## ②旬の食材を用いた郷土食づくりを体験 ～磐城農業高等学校～

11月29日(水)、磐城農業高等学校生活科2年生14名を対象に、「旬の食材を用いた郷土食づくり」を実施しました。最近、食のあり方を見直そうという動きが見られ、いわき地方でも生活研究グループをはじめ、郷土食を作り楽しむ会が各地で開かれるようになってきました。このような中、いわきでとれた農産物を中心とした旬の食材を用いた「郷土食」の調理に、高校生が挑戦しました。講師には、いわき地区生活研究グループ連絡協議会の遠藤みどりさんを招き、農林事務所農業普及部職員3名でサポートしました。



真剣な表情での調理実習

今回は、むかごごはん、さんまのぽーぽー焼き、のっぺい汁、ねぎぬた、ぜんまいの油炒め、ほうれんそうのじゅうねん和えの6品を調理しました。さんまのぽーぽー焼きは、さんまの鮮度の見分け方、皮むき、3枚おろしから始まり、さんまとネギ等の材料を練り込んで焼き上げました。磐城農業高校の生徒達は段取りも良く、調理技術にも長けており、皆充実した様子でした。途中、生徒達には珍しい食材の「むかご」や「じゅうねん」などについて質問もあり、勉強になったようでした。

調理は順調に終了し、季節を感じる郷土食ができ上がり、生徒達をはじめ、講師の遠藤さん、事務所職員の全員でおいしく試食しました。

参加した生徒達は、旬の食材を用いた郷土食を通して、食について見直すきっかけになった様子でした。

11月25日(土)、いわき市文化センターにおいて、「いわき地方ちびっこおいしいごはん教室」を開催しました。この教室は、いわき地方の小学生とその家族に、ごはんを中心とした日本型食生活と地元の農林水産物について理解を深めてもらうため、開催したものです。

多数の応募者の中から抽選で選ばれた、いわき地方の家族20組が参加しました。

当日の食材は、市内直売所の野菜、久之浜町の干しいたけ、小名浜港水揚げの鮭など、ほとんどが地元いわき産で、参加者は豊かないわきの農林水産物について認識を深めました。また、有機栽培実証ほのコシヒカリ、エコファーマーの作ったとっくり芋などの話を聞き、環境と共生した農業についても理解が深まりました。

うつくしま「食」「農」サポーターで料理研究家の飯村直美先生の指導により、親子で協力しながら、にら入り中華肉みそ・生姜ごはんレタス包み、野菜たっぷりとっくり芋汁、生鮭のソテーそ風味、大豆入りキーマカレーを作りました。

昼食は、自分たちの作ったごはん料理を食べましたが、どの親子も良いできばえとなり、ごはんにあうおかずで食がすすみ、3升のごはんをすべてたいらげました。

午後は、小学生はライシーホワイトの黒岡実可さんの出題するごはんクイズに挑戦しました。ごはんや地元の農林水産物に詳しい子供たちが多く、次々に正解していました。

家族の方々は、飯村直美先生の「ごはんと健康」のお話と、うつくしま「食」「農」サポーターで栄養士の志尾崎幸江先生の「おやつとカロリー」のお話を聴いて、バランスのとれた日本型食生活の大切さを学び、食と農に理解を深める一日となりました。



飯村氏による実演指導

11月30日(木)、いわき新舞子ハイツにおいて「食彩いわき地産地消セミナー」を開催しました。このセミナーは、農林産物の国内消費は、食の外部化の進展に伴い加工・外食用指向消費が家計消費を上回っているため、一般消費者へのPRに加え、食を提供する実需者への情報提供を促進し、県産農林産物への理解を深めることを目的に行いました。

当日は、生産者、レストランや旅館など外食産業関係者、量販店、直売所関係者、うつくしま農林水産ファンクラブ会員、うつくしま『食』『農』サポーターなど40名が参加しました。

はじめに、いわき地方の農林業の振興について参加者に紹介し、その後、環境に配慮して生産された特徴ある農産物、更にはいわき新舞子ハイツで試作した特製さつま揚げなどを試食しながら、意見を交換しました。

参加者からは、「このような機会をもっと多くつくってほしい」などの意見が出され、更なる地産地消の推進が期待されるようです。



試食と意見交換

11月18日(土)、いわき農林事務所といわき地方振興局が連携して行う出先機関連携事業において、「緑の応援隊！」による間伐材搬出ボランティア活動を実施しました。

この活動は、地球温暖化防止に重要な役割を果たす森林の整備や保全、木材や木質バイオマスの利用促進が急務となっていることから、いわき地方で間伐を実施した箇所で、林地に残っている間伐材を環境にやさしい木質バイオマス(木質ペレット)としての利用促進を図るため、「緑の応援隊」を募集し、間伐材を林外に搬出する作業を行うこととしており、今年度は2回実施します。ボランティアは、総勢36名の応募がありました。

第1回目の今回は、三和町中寺の中寺40名共有林において、ボランティア応募者36名のうち24名が作業を実施しました。ボランティアの指導は、福島県グリーンフォレスターの平子作麿氏、佐藤行年氏、安藤健二氏の3名にお願いしました。

作業に先立ち、グリーンフォレスターの平子氏から、作業の注意点や搬出の方法などの指導を受け、その後、参加者全員で準備体操を行ってから、搬出作業を開始しました。作業は、3班に分かれ、それぞれ3名のグリーンフォレスターがリーダーとなって進められました。参加者は、林地に残された間伐材を林道脇の土場まで、肩に担いだり、リフティングトングを使って、黙々と搬出していました。枝が残っている間伐材は、鉋や鋸で枝払いも行いました。

また、グリーンフォレスターによる間伐の実演と農林事務所職員による森林整備について説明も行いました。間伐の実演では、間伐作業の安全管理や掛かり木の処理などについても理解を深めました。参加者は、実際に立木を倒す間伐作業の迫力に感心するとともに、森林整備の重要性や山作業の厳しさも肌で感じている様子でした。

当日は、天候にも恵まれた絶好の搬出日和でしたが、若干気温が低く、事務局で準備した暖かいナメコ汁は大変好評でした。

搬出作業は、実演や昼食をはさみ、午前10時から午後2時まで行いました。その結果、約8立方メートルの間伐材が搬出され、参加者は心地よい疲労感を感じた充実したボランティア活動となりました。

搬出された間伐材は、遠野興産(株)のペレット製造施設において木質ペレットに加工され、ペレットストーブやペレットボイラーなど活用される見込みで、今後、益々環境にやさしい木質ペレットの普及が期待されるそうです。



間伐材搬出状況



枝払等作業状況

## トピックス

11月13日(月)、いわき市生涯学習プラザにおいて、いわき市住みよいまちづくり推進連絡協議会主催による「第35回いわき市花いっぱいコンクール」の表彰式が開催され、各入賞団体に表彰状が贈られました。

今年度は町内会、一般企業等から99団体の参加があり、8月にいわき農林事務所農業普及部長を含む4名の審査員による現地審査を行った結果、地域や組織を超えた協力体制により6号国道沿いの花壇を管理した愛和花の会が最優秀賞に選ばれました。

今年は6、7月の低温と長雨により生育に影響を受け、管理にも苦労が多かった年でしたが、土づくり等の基本管理やデザインの工夫、また地域住民の協力体制により、見応えのある花壇が数多く見受けられました。また、環境美化の活動を通して地域住民の輪の広がりが期待されます。



表彰式の様子

## ○平成18年度食品表示研修会開催される

11月17日(金)、浜通り地方における平成18年度食品表示研修会が県いわき合同庁舎で開催されました。今回の研修会は、食の安全・安心、食の多様化といったことから、消費者の適正な食品表示に対する関心が高まっていることから、食品製造業者、販売者等を対象に県農林水産部農産物安全グループが主催したもので、114名が参加しました。

食品表示は、食品を購入する際の重要な情報源であり、食品衛生法、JAS法、薬事法、景品表示法等の法律で規定されています。また、平成16年9月にJAS法に基づく加工食品品質表示基準が改正され、生鮮食品に近い加工食品にも主な原材料の原産地表示が義務づけられることとなり、本年10月より完全施行されました。

参加者は、熱心に担当者からの説明を聞き、食品表示について理解を深めていました。今後も適正な表示が行われ、消費者の食品選択の一助になることが期待されます。

## ○平成18年度いわき地区農林統計協議会開催される

11月22日(水)、県いわき合同庁舎において「平成18年度いわき地区農林統計協議会」が東北農政局福島農政事務所いわき統計情報センターの主催で開催されました。

「18年産水稻の作柄」については、浜通りの水稻収穫量・作柄概況・稲作期間の気象経過・水稻の生育経過等の話がありました。次に「2005年農林業センサス結果からみたいわき地域の農業」や「農業経営統計調査」については、農家数の動き・農家人口及び担い手の動き・耕作放棄地面積や調査の概要等について担当者から詳細に説明がありました。その後、(株)平果蔬菜第一部取締役部長の岡部守利氏から「市場からみたいわきの青果物」の講演があり、「消費者が求めている青果物」「入荷状況」「ポジティブリスト導入」「地産地消の取り組みと自給率向上」などについて、日頃の苦労を織り交ぜたお話があり、出席者は真摯に聴講していました。

## ○高性能林業機械による間伐作業講習会が開催される

11月28日(火)、いわき市常磐藤原町にある湯の岳山荘及び周辺の山林において、プロセッサ等の高性能林業機械による間伐作業講習会、及び意見交換会が開催されました。主催は磐城流域林業活性化センターで、森林組合、素材生産業者、森林所有者、森林ボランティアグループ等53名が参加しました。

午前中は、最近脚光を浴びているスウィングヤーダ(バックホーをベースマシンとして、エンドレススカイライン等で架線集材する機械)をはじめ、プロセッサ、フォワーダの組み合わせによる間伐作業が、機械メーカー、福島県林業普及協力員の指導を得ながら実演されました。また、チェーンソーによる伐採作業から集材→枝払い・造材→運搬→積載までの一連の

作業についても研修を実施しました。午後は、低コスト林業の実現に向けての意見交換会を行いました。今回、講習会で対象とした林分を間伐するために要する経費の試算額は、在来型のシステムで実施した場合と高性能林業機械を使用したシステムを比較すると、後者の方が約半分の経費となりましたが、2千万円近い高性能林業機械を減価償却するには、一定規模以上の広いロット、事業量の確保が課題となってきます。損益分岐点については活発な意見交換がなされましたが、年間3,000m<sup>3</sup>以上の素材生産量がないと機械導入は難しいとの意見が多く、事業量の確保、資金面での支援など行政へも多数要望がありました。

県内における高性能林業機械の導入状況は、平成17年度末で99台、その内いわき農林事務所管内は20台と、県南に次いで多く導入されています。最も多く導入されているのはフォワーダで、次いでプロセッサ等の造材機械となっています。

高性能林業機械は、在来型の搬出システムに比べ、生産性が飛躍的に向上するのに加え、労働安全性の向上、労働強度の低減を図れる上、事業者にとっては新規労働者を引きつける必須のアイテムでもあるため、いわき地方での導入促進が期待されます。



研修会の様子



高性能林業機械の実演

◀ もどる

すすむ ▶

[ [▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#) ]